

学道一如

発行 小樽双葉高校
生徒会通信
2026年3月6日
第58号

卒業式 涙と笑顔でお別れ 希望を胸に次のステージへ

3月1日、卒業式が執り行われ、全日制88名、通信制34名が学び舎を巣立っていった。式の終盤、波木ひなこさん(3-4)が「感謝の言葉」を述べた。思いの込められた言葉に一同耳を傾け、涙する人もいた。卒業生は退場後、各教室で保護者と共に最後のHRを名残惜しんでいた。

誠実に一つ一つ努力を

倉内慶一校長は式辞の中でノーベル賞を受賞した坂口志文さんの言葉を紹介した。「一つ一つ積み上げてきただけです」ここに学びの本質があり、「今日皆さんの形作ってきた地道に



北海道龍谷学園賞を受賞した三田彩葉さん(3-1)

積み重ねた一つ一つの努力、自分の頭で考え、よりよい判断ができるような力をつけてきたこと、：学んだことは奪われない」とおっしゃった。
また、コップ一杯の水を数学、理科、社会、音楽、保健、道徳、国語、英語、哲学の視点で見ると様々な見方ができることを指摘され、幅広い教養の大切さを示された。

「共に生きる」心を

祝辞を述べられたPTA会長の打本さんは仏教のご縁に触れられ、共に生きること、支え合い、思いやりを持って、相手を尊重することをこれからも大切にするよう勧められた。



「感謝の言葉」を述べる波木ひなこさん(3-4)

「おかげさま」の三年間
バレー部で活躍してきた波木ひなこさんはバレーが楽しいと思える瞬間が宝物だった。学校で過ごした日々を思い起こし、懐かしさと寂しさをかみしめながらも、友人、先生方、家族に



坂東元の
鉄道日記
関西の旅(5)

庭瀬への列車は、213系二両編成であった。この車両は、やくもに乗った時に初めて存在を知った。213系は末期の国鉄型車両であり、かつてこの顔の車両も本州で広く見ることができ、今も一部の地域で活躍している。倉敷駅のホームにいた全三度目の満員電車であった。まさに「二度あることは三度ある」であった。また、現在の213系はワンマン運転を前提として改造を受けているため、整理券の処理を行う機械が設置されている。そのために、乗務員室から後ろの席が撤去され、空間ができていく。これも災いし、混雑具合は最骨頂であった。なんとか庭瀬につき



鉄道のサイトを確認すると府中行き115系が向かってきていることがわかったため、この撮影を行った(左写真)。実は、D-19編成であった(左写真)。実は、もう一つの目当てがあった。それは国鉄型電気機関車であるEF64の貨物車であった。しかし、その時刻になると現れることがなかった。私は貨物列車に関しては時刻表も持っていないため、勉強し直す必要があると感じた。しかし、倉敷方面から通過列車があった。庭瀬駅の倉敷方面は曲線になっていたので、その線を見つめると電気機関車が見えた。驚きながらもカメラを咄嗟に構えた。庭瀬駅を通過したのはEF65形1128号機(右下写真)であった。この機関車は、貨物こそ引いてい

「おかげさま」、感謝の思いが浮かんできたという。
バレーボールの最後の公式戦、目標には届かなかったが、楽しんでプレーし、かけがえのない経験ができた。まさに「おかげさま」の三年間だった。



ないが関西方面への貨物列車であった。この時、対抗も通過列車があり、こちらは特急「やくも」であった。時刻は16時半となり、岡山駅への列車が入線した。最後の岡山での在来線での乗車車両は115系A06編成であった。今度こそはさほど混雑しておらず、先頭車で全面展望を楽しむことができた。岡山駅との間にある岡山貨物ターミナルには、EF64形電気機関車が待機して見えた。これをスマートフォンで撮影することはできたが、心残りが出てしまった。次に岡山を訪れる機会にEF64が現役であったならば、今度こそ写真に収めたいと思った。岡山駅に到着し、右側には対抗の115系が停車していた。左側には、これか瀬戸大橋を渡り、四国へ向かう特急「しおかぜ」を降りていた。私はお世話になった115系を降りると、直ぐに列車の前へと向かいカメラを構えた。そこには同じくカメラを構えている少年が写った。115系という国鉄型車両は愛されていると身に染みを感じた。程なくして115系A06(左写真)編成は、私の横を轟音を立てて通り過ぎ、播州赤穂へと走り出した。私は、115系電



車に最後に四度も乗車できても嬉しく思い、一生の思い出になると感じた。ここから大阪への帰路は、伯母と相談し、新幹線に乗ることになった。
切符を購入し、新幹線改札を抜けると、系「ハローキティ」の新幹線「HOゲージ」フル編成の展示がされていた。名前は忘れたものの、西日本には、「駅ドーナツ」という名の西日本期間限定で塩バターキャラメル味のドーナツが販売されており、コンビニの壁の全面には表紙が綺麗に貼られていた。表紙には485系国鉄型特急車両のイラストが描かれ

最後にいつも試合の応援に来てくれ、毎日弁当を作り、素直になれないときも優しく包み、大切に育ててくれたお母様への感謝が述べられた。壁にぶつかってもこの学び舎での経験を糧に乗り越えていくと決意を述べた。

ており、十数年前に母が大阪で撮影してくれた183系「こうのとり」や青函トンネルを潜り函館に来ていた魔改造の485系特急「白鳥」、国鉄色の381系特急「やくも」などを思い出した。
弁当屋では、伯母は「栗おこわ弁当」で私をせつかく岡山に来たのだからと「特急やくも」山陰への旅路弁当(左写真)を購入した。ホームに上がるとワシントンと山陽新幹線のコラボ車両である700系「せとうちブルイ号」が入線してスについては、アニメを数話だけ見たこととがあり、主要キャラクターが数人の名前を知っている程度であるが、全面を鮮やかな青色にラッピングされた新幹線は新鮮で格好いいと感じた。
帰りに乗車する新幹線は、「のぞみ」180号だった。「のぞみ」は、新大阪と博多を結ぶ山陽新幹線の最上位種別の一つである。乗車してから気づいたが、流石に最上位種別であるため、三県を移動するため、購入したお弁当は、やはり「やくも」も「ゆつたり」食べたことと感じた。そのため、出雲に行くことがあればぜひ購入したい。また伯母が購入したお弁当も機会があれば食ってみたいと思った。お弁当を食べ終わると、あつという間に新大阪に到着した。
伯母とは戦争についての話をするので丁度、尼崎で映画「ペリリユ」楽園のゲルニカ」の放映があった。これは今しかないと思いつくから東海道本線の列車に乗車し、尼崎へと向かった。映画の感想としては、結末は大方予想が当たったもの、うまい具合に作画の手を抜き、脚本もしっかりしていた。戦後八〇年の節目に際し、見ておいて損はない作品だと感じた。
そうして長い岡山弾丸旅は終わりを迎



ており、十数年前に母が大阪で撮影してくれた183系「こうのとり」や青函トンネルを潜り函館に来ていた魔改造の485系特急「白鳥」、国鉄色の381系特急「やくも」などを思い出した。
弁当屋では、伯母は「栗おこわ弁当」で私をせつかく岡山に来たのだからと「特急やくも」山陰への旅路弁当(左写真)を購入した。ホームに上がるとワシントンと山陽新幹線のコラボ車両である700系「せとうちブルイ号」が入線してスについては、アニメを数話だけ見たこととがあり、主要キャラクターが数人の名前を知っている程度であるが、全面を鮮やかな青色にラッピングされた新幹線は新鮮で格好いいと感じた。
帰りに乗車する新幹線は、「のぞみ」180号だった。「のぞみ」は、新大阪と博多を結ぶ山陽新幹線の最上位種別の一つである。乗車してから気づいたが、流石に最上位種別であるため、三県を移動するため、購入したお弁当は、やはり「やくも」も「ゆつたり」食べたことと感じた。そのため、出雲に行くことがあればぜひ購入したい。また伯母が購入したお弁当も機会があれば食ってみたいと思った。お弁当を食べ終わると、あつという間に新大阪に到着した。
伯母とは戦争についての話をするので丁度、尼崎で映画「ペリリユ」楽園のゲルニカ」の放映があった。これは今しかないと思いつくから東海道本線の列車に乗車し、尼崎へと向かった。映画の感想としては、結末は大方予想が当たったもの、うまい具合に作画の手を抜き、脚本もしっかりしていた。戦後八〇年の節目に際し、見ておいて損はない作品だと感じた。
そうして長い岡山弾丸旅は終わりを迎